

5月29日(土)第2回有明海のなぜ?シンポジウム 「なぜ、タイラギがとれたのか」を開催しました。

平成22年5月29日(土)に佐賀大学(佐賀市本庄町1番地)にて第2回有明海のなぜ?シンポジウムを開催しました。

当日は、市民や研究者、漁業者など約140名の参加がありました。

第2回目のテーマは、13年ぶりに有明海で豊漁となったタイラギについてでした。タイラギが今年なぜ、とれたのかの要因は2008年の夏に浮泥が少なく、幼生の着底が進んだこと、台風がなく生息しやすい環境になっていたことなどが挙げりましたが、偶然が重なった結果で回復に至ったとはいえないと指摘されました。

【基調報告】

■「タイラギの生態と近年の資源状況の推移」

佐賀県有明水産振興センター 特別研究員……………荒巻 裕

■「有明海北東部タイラギ潜水器漁場におけるタイラギの大量死要因について

～漁場環境とタイラギの生理状態からの考察～

独立行政法人国際農林水産業研究センター 主任研究員……………塚本 達也

■総合討論「タイラギはなぜ復活したのか」

コメンテーター

佐賀県有明水産振興センター 所長……………古賀 秀昭 氏

佐賀県有明水産振興センター 特別研究員……………荒巻 裕 氏

独立行政法人国際農林水産業研究センター 主任研究員……………塚本 達也 氏

佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター 准教授……………速水 祐一 氏

NPO法人有明海再生機構 副理事長……………荒牧 軍治 氏



会場の様子

次回
予告

「有明海のなぜ?」シンポジウム

第3回 なぜ貧酸素水塊が発生するのか

日 時 平成22年7月31日(土) 13:30~17:00

会 場 佐賀大学理工学部6号館 都市工学科大講義室

平成22年度理事会・第1回通常総会報告。

5月29日(土)10時半から2時間にわたり、佐賀大学212号室(佐賀市)において、平成22年度理事会・第1回通常総会を開催しました。

第1号議案の平成21年度事業報告及び収支決算の承認、第2号議案の平成22年度事業計画及び収支予算の決定、第3号議案 組織体制の変更に関する件を審議しました。

今回役員改正の時期にあたりましたので、第4号議案 役員の選任に関する件で、新役員の承認と選出を行ないました。

新理事長、副理事長は引き続き、楠田理事長、大和田副理事長、松岡副理事長、荒牧副理事長が選任されました。今回、これまで理事として活動していただいております鬼頭鈞先生が任期満了をもって辞任し、新たに小松利光先生が理事として新任されました。

新役員名簿は下記のとおりです。任期は平成24年6月30日までとなっております。

どうぞよろしく申し上げます。

役職	氏名	所属
理事長	楠田 哲也	北九州市立大学 教授
副理事長	大和田 紘一	熊本県立大学 教授
副理事長	松岡 數充	長崎大学 教授
副理事長	荒牧 軍治	佐賀大学 名誉教授
理事	中田 英昭	長崎大学 教授
理事	瀬口 昌洋	佐賀大学 教授
理事	小松 利光	九州大学 教授



理事会の様子

有明海再生技術コンサルタント事業の実施について。

今年度も支援会員の皆様の有明海再生に関する調査・研究、技術開発の事業活動について、正会員(大学等の研究者)が助言を行うことで、支援会員の事業活動を支援していくことを目的に実施します。年間を通じて相談等受け付けておりますので、どうぞご活用下さい。

平成22年度有明海再生機構の主な事業計画を紹介します。

平成22年度通常総会で、平成22年度の事業計画を次のとおり実施することとしました。

平成22年度事業計画概要

実施時期 (予定)	事業名	事業内容
5月	理事会・総会	事業計画・予算・決算の決議
6月～	有明海再生に関する研究等助成事業	会員を対象に有明海再生に向けた研究費の一部を助成する。
6月～	再生技術コンサルティング事業	支援会員企業からの有明海環境改善技術等の具体的テーマについて技術相談を行う。
2月	有明海講座の開催	有明海の自然、生態、文化、歴史、環境問題を題材とする公開講座を開催し、広く一般県民に対して有明海の全容を伝える。
年4回	有明海なぜ？シンポジウムの開催	これまでの調査研究で分かってきた事、有明海で起きた事について分かりやすく解説。
通年	広報関係	ニュースレター、年報の発行。 ホームページの更新。
通年	分科会 研究企画委員会活動	分科会、研究企画委員会等の開催
通年	地球環境基金助成事業	有明海でのカキ礁実験 有明海講演会（長崎開催）
通年	有明海データベースの整理	環有明環境情報データベースの新たな情報整備を行う。
通年	有明海研究成果収集解析業務事業	有明海・八代海の両海域の調査研究の総合的な推進のため、関係機関間の調整能力の強化、調査等を行う。
通年	有明海環境水産データ整備事業	有明海周辺県の紙ベースデータを電子化する。
通年	有明海再生方策検討事業	有明海再生のシミュレーションモデルにより、再生策の評価検討を行うことにより、有明海の総合的再生策の提言を行う。

支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様)

第12号 日東製網株式会社 様

～養殖魚安定生産をめざして～

当社は、世界初となる「無結節網」を開発し、網業界のパイオニアとして100年の時を歩んでまいりました。この長い歴史の中でお客さまと共に培ったノウハウを活かしながら、皆様の安全・安心な環境づくりに貢献していきたいと考えております。

その中で、クロマグロを海岸から2～3kmの沖合養殖する研究に取り組んでいます。

近年ワシントン条約締結国会議で、クロマグロの禁輸案が否決されましたが、漁獲規制に向けた動きがあり、益々クロマグロ養殖の需要が増えてきております。

従来の方では、養殖場所確保が困難で、沖合2～3kmで養殖網を台風被害も少なくする為10m沈下させる方法に取り組んでいます。

安定した養殖魚生産、自給率などに貢献し、今後もより一層の技術と情熱で皆様の信頼と、養殖生産環境づくりに全力を尽くしていきます。



お問い合わせ

日東製網株式会社

佐賀県多久市東多久町別府4248-1

TEL:0952-76-2531

ホームページ: <http://www.nittoseimo.co.jp>

正会員のご紹介

有明海再生に関する研究を学術的に行う大学等の研究者で構成される正会員に新たに入会していただきました。

■山口 創一 助教 (九州大学大学院 総合理工学研究院 大気海洋環境システム学専攻)

私は修士課程二年(2001年)の時から有明海の問題について取り組んでおり、かれこれ10年になると思っています。その間、主に有明海における貧酸素水塊の形成機構解明を目指して研究に携わってきました。今年4月、佐賀大学有明海総合研究プロジェクトから九州大学大学院総合理工学研究院に異動となり、現在は学生と共に数値生態系モデルを通して、有明海の貧酸素水塊や赤潮の形成機構について学んでいます。私の父は諫早市出身であり、私自身も小さい頃は諫早湾の干潟で遊んだ経験があります。そのため、有明海には強い思い入れがあり、そこを対象として研究出来ることに深い喜びと使命感を感じています。研究者としてまだまだ未熟ですが、皆様にご教授いただきながら、有明海の再生のため尽力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費: **企業・団体… 一口 5万円** **個人… 一口 1万円**

編集後記

先日有明海で刺し網漁を体験しました。刺し網漁はカーテン状にたらし、網の網目にささって、からまったものを漁獲します。2回の漁で取れた魚は、コノシロが100匹ほどとヒラが3、4匹。船の上で捕れたばかりのコノシロを刺身で頂きました。おいしい有明海を実感した一日でした。(く)



発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用) : 0952-26-7050

E-mail : npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8月、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままで。